

令和4年度下半期 双海中山商工会地域景気動向

双海中山商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を半期毎に取りまとめ、本商工会地域の事業者の声を加え報告するものです。動向を測るため、期首（10月調査）と、期末（3月調査）を比較しています。

（1）愛媛県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、経済概況を抜粋して掲載します。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和4年10月～（令和5年3月）」より
10月 <https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/041130kennaijousei.pdf>

1 経済概況

一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

前回との比較 →

○個人消費

全体としては緩やかに持ち直している。

前回との比較 →

- 【百貨店・スーパー販売額】前年同月比3.3%増、7か月連続で前年を上回る。
- 【専門量販店販売額】ドラッグストアは15か月連続で前年を上回る。
家電大型専門店が3か月連続で、ホームセンターは8か月連続で前年を下回る。
- 【コンビニエンスストア販売額】10か月連続で前年を上回る。
- 【新車販売台数】軽乗用車は2か月ぶりに前年を上回る。
普通乗用車は2か月ぶりに前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は弱い動きとなっている。

前回との比較 →

公共工事は弱い動きとなっている。

前回との比較 →

- 【新設住宅着工戸数】前年同月比35.5%減少、5か月連続で前年を下回る。
- 【公共工事】請負金額の前年同月比は15.0%減少、3か月連続で前年を下回る。

○生産活動

一部で弱い動きもみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。

前回との比較 →

- 【鉱工業生産指数】前年同月比（原指数）5.2%上昇、2か月連続で前年を上回る。
汎用・生産用機械、プラスチック製品、食料品等の業種で前年を上回る。
鉄鋼、繊維、窯業・土石製品等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、求人が求職を大幅に上回って推移している。今後も新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に、引き続き注意する必要がある。

前回との比較 →


雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。

前回との比較 →

- 【有効求人倍率】1.49倍と2か月ぶりに前月を上回り、16か月連続で前年を上回る。
- 【正社員有効求人倍率】1.19倍と、17か月連続で前年を上回る。
- 【現金給与総額】名目では前年比4.3%増、4か月連続で前年を上回る。


1 経済概況

一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

前回との比較 

○個人消費

全体としては緩やかに持ち直している。

前回との比較 

【百貨店・スーパー販売額】前年同月比2.2%増加、12か月連続で前年を上回る。

【専門量販店販売額】ドラッグストアは20か月連続で前年を上回る。


家電大型専門店が2か月連続、ホームセンターは13か月連続で前年を下回る。

【コンビニエンスストア販売額】15か月連続で前年を上回る。


【新車販売台数】軽乗用車は6か月連続で前年を上回る。普通乗用車は2か月連続で前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は持ち直しつつある。

前回との比較 

公共工事は持ち直しつつある。


前回との比較 

【新設住宅着工戸数】前年同月比13.5%増加、3か月連続で前年を上回る。

【公共工事】請負金額の前年同月比は46.2%増加、3か月連続で前年を上回る。

○生産活動

概ね横ばい圏内の動きとなっている。

前回との比較 


【鉱工業生産指数】前年同月比(原指数)1.3%低下、2か月連続で前年を下回る。

汎用・生産用機械、金属製品、非鉄金属、石油・石炭製品の業種で前年を上回る。

鉄鋼業、化学工業、プラスチック製品等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、求人が求職を大幅に上回って推移している。今後も物価上昇等が雇用に与える影響に注意する必要がある。

前回との比較 

雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。

前回との比較 

【有効求人倍率】1.41倍と3か月連続で前月を下回り、21か月連続で前年を上回る。

【正社員有効求人倍率】1.16倍と、22か月連続で前年を上回る。

【現金給与総額】名目では前年比3.6%増、2か月ぶりに前年を上回る。

(2) 中小企業景況調査報告書【えひめ版】

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

令和4年10月～12月分

調査対象期間：令和4年度第3四半期（令和4年10月～12月期）

調査対象企業：150企業 **回答企業：**150企業

（製造業：30社 建設業：20社 小売業：42社 サービス業：58社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇り 10.0 ~▲10.0	 曇り ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	---	---	---

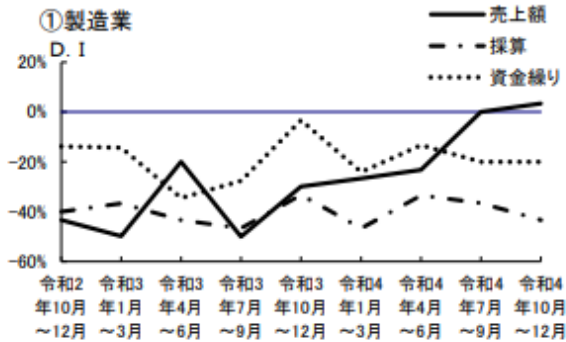
1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
		天気	DI	天気	DI	天気	DI	天気	DI	天気	DI
期別	令和2年 10～12月期		▲ 41.5		▲ 20.0		▲ 64.2		▲ 37.9		▲ 40.9
	令和3年 1～3月期		▲ 39.3		▲ 20.0		▲ 53.7		▲ 34.5		▲ 36.9
	令和3年 4～6月期		▲ 40.0		▲ 25.0		▲ 51.2		▲ 28.1		▲ 36.1
	令和3年 7～9月期		▲ 43.3		0.0		▲ 42.9		▲ 43.1		▲ 32.3
	令和3年 10～12月期		▲ 33.3		▲ 15.0		▲ 57.2		▲ 39.7		▲ 36.3
	令和4年 1～3月期		▲ 51.8		▲ 30.0		▲ 66.7		▲ 53.4		▲ 50.5
	令和4年 4～6月期		▲ 13.3		▲ 25.0		▲ 51.2		▲ 21.4		▲ 27.7
	令和4年 7～9月期		▲ 13.4		▲ 10.0		▲ 57.1		▲ 22.8		▲ 25.8
	令和4年 10～12月期		▲ 23.3		▲ 5.0		▲ 45.2		▲ 29.3		▲ 25.7
	令和5年 1～3月期		▲ 10.0		5.0		▲ 45.2		▲ 27.6		▲ 19.5

(注1) 業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

(注2) 「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向



<前期比>

売上額 : やや好転 (0.0 → 3.4 ポイント)

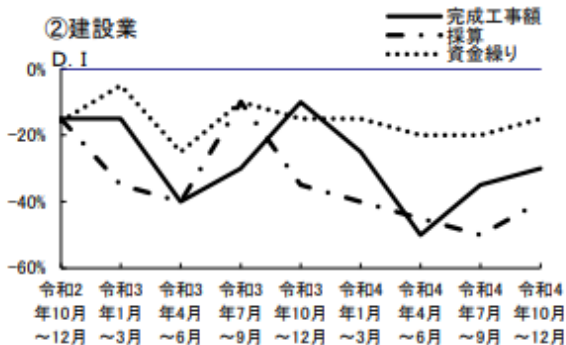
採算 : やや悪化 (▲36.6 → ▲43.4 ポイント)

資金繰り : 横ばい (▲20.0 → ▲20.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 原材料価格の上昇 (48.1%)

2位 : 需要の停滞 (14.8%)



<前期比>

完成工事額 : やや好転 (▲35.0 → ▲30.0 ポイント)

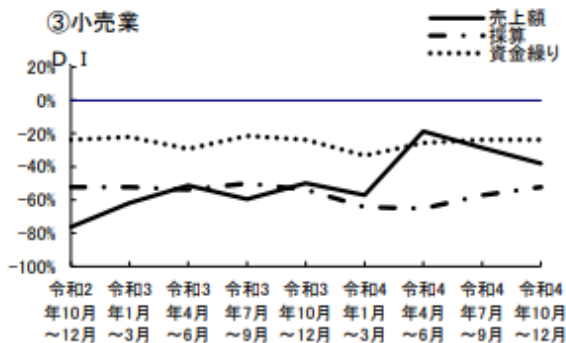
採算 : やや好転 (▲50.0 → ▲40.0 ポイント)

資金繰り : やや好転 (▲20.0 → ▲15.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料価格の上昇 (68.4%)

2位 : 従業員の確保難 (21.1%)



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲28.6 → ▲38.1 ポイント)

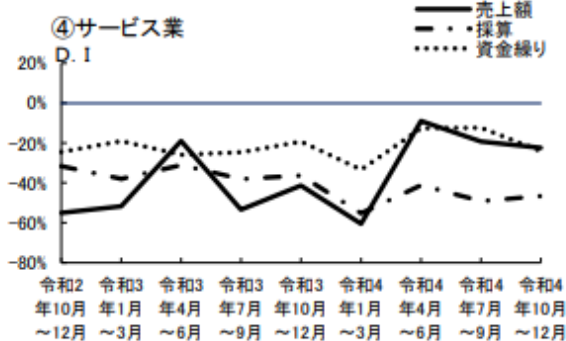
採算 : やや好転 (▲57.1 → ▲52.3 ポイント)

資金繰り : 横ばい (▲23.8 → ▲23.8 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 仕入単価の上昇 (46.2%)

2位 : 購買力の他地域への流出 (15.4%)



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲19.3 → ▲22.4 ポイント)

採算 : やや好転 (▲49.1 → ▲46.6 ポイント)

資金繰り : 悪化 (▲12.3 → ▲24.1 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料等仕入単価の上昇 (34.0%)

2位 : 人件費以外の経費の増加 (11.3%)

2023年1～3月分

調査対象期間：令和4年度第4四半期（令和5年1月～3月期）

調査対象企業：150企業 **回答企業：**150企業

（製造業：29社 建設業：20社 小売業：43社 サービス業：58社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

***記号とDI値の関係**

快晴 ~30.1	晴 30.0 ~10.1	薄曇 10.0 ~▲10.0	曇 ▲10.1 ~▲30.0	雨 ▲30.1~
-------------	--------------------	----------------------	----------------------	-------------

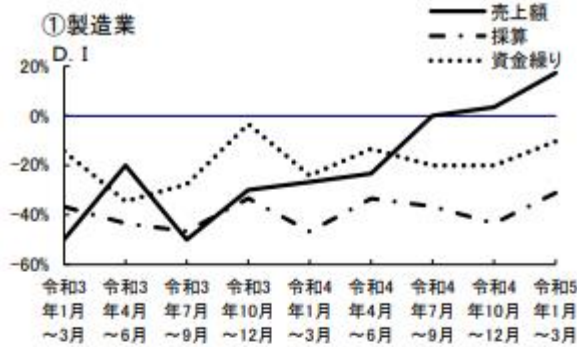
1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

業種別	①製造業	②建設業	③小売業	④サービス業	全体	
期別	令和3年 1～3月期	▲ 39.3	▲ 20.0	▲ 53.7	▲ 34.5	▲ 36.9
	令和3年 4～6月期	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 51.2	▲ 28.1	▲ 36.1
	令和3年 7～9月期	▲ 43.3	0.0	▲ 42.9	▲ 43.1	▲ 32.3
	令和3年 10～12月期	▲ 33.3	▲ 15.0	▲ 57.2	▲ 39.7	▲ 36.3
	令和4年 1～3月期	▲ 51.8	▲ 30.0	▲ 66.7	▲ 53.4	▲ 50.5
	令和4年 4～6月期	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 51.2	▲ 21.4	▲ 27.7
	令和4年 7～9月期	▲ 13.4	▲ 10.0	▲ 57.1	▲ 22.8	▲ 25.8
	令和4年 10～12月期	▲ 23.3	▲ 5.0	▲ 45.2	▲ 29.3	▲ 25.7
	令和5年 1～3月期	▲ 10.4	▲ 35.0	▲ 39.5	▲ 22.4	▲ 26.8
	令和5年 4～6月期	3.4	▲ 20.0	▲ 46.5	▲ 19.0	▲ 20.5

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向



<前期比>

売上額：好転（3.4→17.3ポイント）

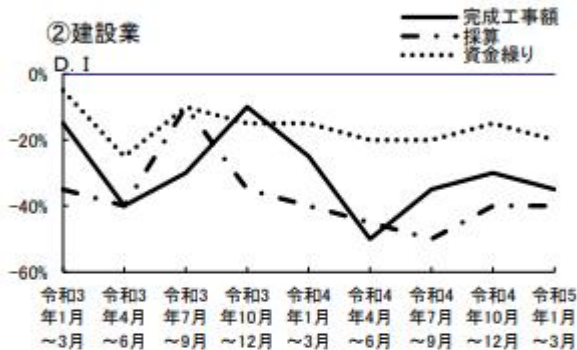
採算：好転（▲43.4→▲31.1ポイント）

資金繰り：やや好転（▲20.0→▲10.3ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）

1位：原材料価格の上昇（40.7%）

2位：需要の停滞（14.8%）



<前期比>

完成工事額：やや悪化（▲30.0→▲35.0ポイント）

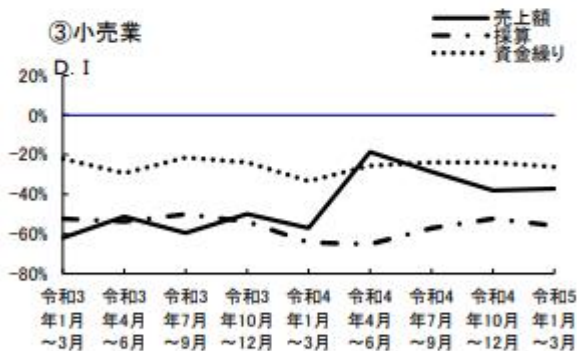
採算：横ばい（▲40.0→▲40.0ポイント）

資金繰り：やや悪化（▲15.0→▲20.0ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）

1位：材料価格の上昇（68.4%）

2位：従業員の確保難、熟練技術者の確保難（10.5%）



<前期比>

売上額：ほぼ横ばい（▲38.1→▲37.2ポイント）

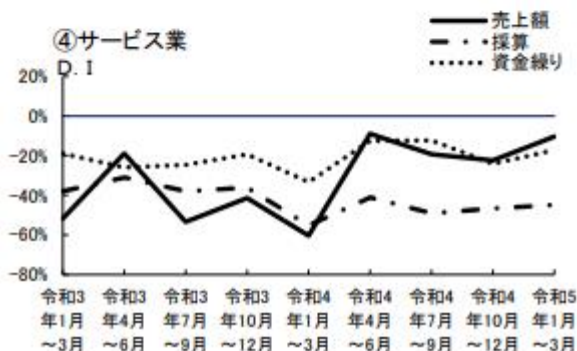
採算：やや悪化（▲52.3→▲55.8ポイント）

資金繰り：やや悪化（▲23.8→▲26.2ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）

1位：仕入単価の上昇（23.8%）

2位：購買力の他地域への流出（21.4%）



<前期比>

売上額：好転（▲22.4→▲10.4ポイント）

採算：やや好転（▲46.6→▲44.8ポイント）

資金繰り：やや好転（▲24.1→▲17.2ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）

1位：材料等仕入単価の上昇（44.4%）

2位：人件費の増加（9.3%）

(3) 中小企業景況調査

中小企業庁及び中小機構が、中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等の DI 値※を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。約 80%を小規模企業が占める日本の中小企業構造の実態を踏まえた唯一の調査です。

※DI・・・ディフュージョン・インデックス。前年同期比または前期比で、「好転」と回答した企業比率から「悪化」と回答した企業比率を引いた数値。

中小企業景況調査より、ポイントとコメントを抜粋して掲載しています

第170回 中小企業景況調査

(2022年10-12月期)

調査機関：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

《調査結果の概要》

中小企業の業況判断DIは、2期連続して低下した。

(1) 2022年10-12月期の全産業の業況判断DIは、▲22.9(前期差3.4ポイント減)となり、2期連続して低下した。

(2) 製造業の業況判断DIは、▲19.2(前期差4.0ポイント減)となり、2期連続して低下した。業種別に見ると、家具・装備品、輸送用機械器具、電気・情報通信機械器具・電子部品など4業種で上昇し、パルプ・紙・紙加工品、食料品、木材・木製品、繊維工業など10業種で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・原材料価格の上昇に加え、燃料・電力料金高円安等の影響で収益的に厳しい状況が続く。価格への転嫁にも限界がある。[パルプ・紙・紙加工品 愛媛]

(3) 非製造業の業況判断DIは、▲24.0(前期差3.0ポイント減)となり、2期連続して低下した。産業別に見ると、サービス業、小売業、卸売業、建設業のすべての産業で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・長引く物価高や円安による仕入単価の上昇に歯止めがかからず、運送単価の交渉にも、なかなか応じてもらえないことで経営状態は悪化している。また、慢性的な人手不足も解消されず、苦慮している。[対事業所サービス業 宮崎]

(4) 全産業の長期資金借入難易度DIは、▲6.6(前期差0.4ポイント減)と2期連続して低下し、短期資金借入難易度DIは、▲4.5(前期差1.0ポイント減)と2期連続して低下した。

<トピックス①>

全産業の原材料・商品仕入単価DI(前年同期比)は、74.8(前期差4.2ポイント増)と10期連続して上昇した。産業別に見ると小売業、サービス業、卸売業、建設業、製造業のすべての産業で上昇した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・原材料価格の上昇と電気・ガス料金の大幅上昇による大幅なコストアップが経営に与える影響が非常に大きい。販売単価を上げる事については、特に大口顧客の理解が得にくい状況が続いている。[印刷 佐賀]

<トピックス②>

全産業の従業員数過不足DI(今期の水準)は、▲22.6(前期差2.4ポイント減)と3期連続して低下し不足感が強まった。産業別に見ると、卸売業、製造業、サービス業、建設業、小売業のすべての産業で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・全国旅行支援の影響で好転している。ただし、従業員が不足しており、予約を完全に受け入れられる状態になっておらず、せっかくの収益アップのチャンスを逃している状態にある。[宿泊業 宮城]

【調査対象企業のコメント】

- ・ 人材の不足により、受注できる仕事に限られる。また、受注の機会を逃している状況がある。外部の人材調達も難しく、人手不足の解消が困難。[情報通信・広告業 北海道]
- ・ 部品、材料の不足と価格上昇に伴い、生産から納入までのリードタイムが一定化せずにロスが出ている。調達業務に時間がかかり、無駄な経費が増加の傾向にある。[電気・情報通信機械・電子部品 青森]
- ・ 全国旅行支援の影響で好転している。ただし、従業員が不足しており、予約を完全に受け入れられる状態になっておらず、せっかくの収益アップのチャンスを逃している状態にある。[宿泊業 宮城]
- ・ 材料費の仕入れ単価が再度上がってきている。部品など直接お客様にかかる物は値上げ対応していますが、材料費は、ほぼ上げられていないです。[対個人サービス業 栃木]
- ・ 昨年末から、いろいろな材料等の価格が徐々に上がってきました。最近になり円安等により、電気代など全ての材料の価格が上がり、経営的に厳しくなっており、お客様への2回目の値上げをすべきなのが、頭が痛いです。[鉄鋼・非鉄金属 神奈川]
- ・ 客先における電子部品の調達難が続いており、受注があっても製品にできず、売上にならないケースが出ている。安定した売上確保が困難である。[金属製品 新潟]
- ・ 円安の影響もあり、資材価格の高騰している状況がしばらくは続くと感じます。人材不足も解消されず、肌感覚では更に激しいコスト増加が予測され、不安です。[建設業 富山]
- ・ 部品の調達難については若干緩和されてきているが原材料価格の高騰が収益面で厳しくなっている。受注物件の大型化により作業期間中の部品価格上昇があり採算面で見積り作成が困難となっている。[機械器具 岐阜]
- ・ 受注はコロナ前と同水準にて頂いているが、コロナ感染・世界情勢等の影響により生産・物流の停滞感からか、材料・資材が長納期となっており、要望に応えられない、もしくは先延ばしをお願いする案件も出ている。[輸送用機械器具 愛知]
- ・ 半導体関連の仕事は増加しているが、原材料価格の上昇が大きい。原材料不足もあり、納期が読めない。半導体以外の引き合いはすこぶる低調。ここにきて価格転嫁の良い流れになって来ているが、一部で難しい面もある。[その他の製造業 滋賀]
- ・ 円安、原料高、輸入経費の増大で採算が取れない。価格転嫁も購買意欲の減退を恐れ、取引先もなかなか応じてくれないのが現状。採算ベースになるまでの時間が必要。[卸売業 大阪]
- ・ 木材の需要が落ち着き、価格も落ち着いて来たので、ウッドショック時の製品がダブついて来て、価格・需要共に低下している。冬になると原材料も市場に出にくくなるため、この先の見通しが立ちづらい。[木材・木製品 和歌山]
- ・ 受注数はコロナ禍においてはこれまでで一番数字が高いが、原材料、資材等の高騰により利益は不変である。働き手確保が難しい為、受注先の要望どおりに納品することも難しい。その為状況が良くなったという実感が薄い。[食料品 島根]
- ・ 長期に渡るコロナ禍と円安による商品価格上昇の影響により、消費者の購買意欲の低下が見られる。また、小売業や接客業へ求職希望の方が少なく、販売員の確保に苦慮している。[小売業 岡山]
- ・ コロナで行動制限が求められなくなり、来客数は増加し、売上げも増えたが、仕入れ、経費も上昇し、利益増にはつながらないように感じる。従業員もなかなか集まらず、高齢化が進んでいるので、今後人材確保が最重要課題になりそうだ。[飲食業 徳島]
- ・ 原材料価格の上昇に加え、燃料・電力料金高円安等の影響で収益的に厳しい状況が続く。価格への転嫁にも限界がある。[パルプ・紙・紙加工品 愛媛]
- ・ 円安とエネルギー価格の上昇で、生活防衛の状況が顕著に表われているように思われます。原材料の価格の上昇で値上げをしているが、値上げによって買い控えがおきているように感じます。回復には少し時間がかかると思います。[家具・装備品 福岡]
- ・ 原材料価格の上昇と電気・ガス料金の大幅上昇による大幅なコストアップが経営に与える影響が非常に大きいですが、販売単価を上げる事については、特に大口顧客の理解が得にくい状況が続いている。[印刷 佐賀]
- ・ 長引く物価高や円安による仕入単価の上昇に歯止めがかからず、運送単価の交渉にも、なかなか応じてもらえないことで経営状態は悪化している。また、慢性的な人手不足も解消されず、苦慮している。[対事業所サービス業 宮崎]

第170回中小企業景況調査より抜粋

https://j-net21.smrj.go.jp/report/smrjsurvey/tsdlje0000001alv-att/170th_houkokusho.pdf

第171回 中小企業景況調査

(2023年1-3月期)

調査機関：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

《調査結果の概要》

中小企業の業況判断DIは、3期ぶりに上昇した。

(1) 2023年1-3月期の全産業の業況判断DIは、▲13.7（前期差9.2ポイント増）となり、3期ぶりに上昇した。

(2) 製造業の業況判断DIは、▲13.6（前期差5.6ポイント増）となり、3期ぶりに上昇した。業種別に見ると、パルプ・紙・紙加工品、食料品、家具・装備品、繊維工業など10業種で上昇し、機械器具、鉄鋼・非鉄金属、金属製品など4業種で低下した。

（参考）調査対象企業のコメント（例）

- ・コロナ禍以降低調な動きのまま現在に至り市況は回復の傾向にはあるが、まだまだ本来の力のある戻りではなく先行き不透明。将来むかえる設備の老朽化問題、従業員の確保等課題が多く大きな変換期にきている事を感じる。[繊維工業 山形]

(3) 非製造業の業況判断DIは、▲14.1（前期差9.9ポイント増）となり、3期ぶりに上昇した。産業別に見ると、サービス業、卸売業、小売業、建設業のすべての産業で上昇した。

（参考）調査対象企業のコメント（例）

- ・全国旅行支援及びインバウンド増加により、宿泊人数及び宿泊単価が好転。但し、仕入単価、水道光熱費上昇により利益減少が続く。[宿泊業 神奈川]

(4) 全産業の長期資金借入難易度DIは、▲5.7（前期差0.9ポイント増）と3期ぶりに上昇し、短期資金借入難易度DIは、▲3.5（前期差1.0ポイント増）と3期ぶりに上昇した。

<トピックス①>

全産業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）は、74.4（前期差0.4ポイント減）と11期ぶりに低下した。産業別に見るとサービス業で上昇し、卸売業で横ばい、製造業、建設業、小売業で低下した。

（参考）調査対象企業のコメント（例）

- ・あらゆるものの値上がりが影響して全体的な受注が減少している上、原材料・電気・外注費・人件費がさらに高騰して採算が取れなくなっている。物が買えないから、売れない、という悪循環になっていると思います。[金属製品 大阪]

<トピックス②>

全産業の従業員数過不足DI（今期の水準）は、▲21.4（前期差1.2ポイント増）と4期ぶりに上昇し不足感が弱まった。産業別に見ると、卸売業、建設業、サービス業、製造業、小売業のすべての産業で上昇した。

（参考）調査対象企業のコメント（例）

- ・契約前の相談が多いが資材の高騰、労働者の確保が難しく安易に受注できない。外注に頼りたいが取引先も高齢化や人材確保に苦労しているらしく頼れない。仕事があっても受注できない事に苦慮している。[建設業 福島]

【調査対象企業のコメント】

- ・ 原材料価格の上昇が続いている事、それにともない売値を上げたいが、原材料が上がる度に上げる事が出来ない状況である。又、物価上昇にともない、菓子のニーズが変化し、来客が減っている印象である。[食料品 北海道]
- ・ コロナ禍以降低調な動きのまま現在に至り市況は回復の傾向にはあるが、まだまだ本来の力のある戻りではなく先行き不透明。将来むかえる設備の老朽化問題、従業員の確保等課題が多く大きな変換期にきている事を感じる。[繊維工業 山形]
- ・ 契約前の相談が多いが資材の高騰、労働者の確保が難しく安易に受注できない。外注に頼りたいが取引先も高齢化や人材確保に苦勞しているらしく頼れない。仕事があっても受注できない事に苦慮している。[建設業 福島]
- ・ 消毒液のニーズに落ち着きがみられてきている一方、マスクの取りはずしによる化粧品需要がみられるようになった。[化学 茨城]
- ・ コロナ禍による原材料不足で、納品が遅れる商品が出てきた。また原材料価格の高騰により、仕入単価が上昇している。既存顧客は年金生活者が多く、物価上昇の影響で支出は生活費が中心となり、客足の戻りは悪い。[小売業 長野]
- ・ 全国旅行支援及びインバウンド増加により、宿泊人数及び宿泊単価が好転。但し、仕入単価、水道光熱費上昇により利益減少が続く。[宿泊業 神奈川]
- ・ 住宅着工数の減少により、製品需要が大変停滞している。今後よくなる兆しの話がなく、販売に苦戦している。そのため、コスト高に関わらず、製品単価が低下している。[木材・木製品 富山]
- ・ 販売量は新型コロナの影響から回復基調で、5月8日からの規制の廃止や緩和により順調に推移すると予想されるが、原材料やエネルギー価格の高騰に円安が加わり、採算面は依然と厳しい状況が続くと思われる。[卸売業 愛知]
- ・ 従業員が少しずつ増えているが、扶養内での問題もあり、午前中のみや時間制限があり、いつも人員不足を感じる。物価高により、設備投資も思うようにいかない状況である。[対個人サービス業 岐阜]
- ・ 半導体関連の引合いは活発化している。素材価格の上昇が業績悪化をもたらしている。価格転嫁に対して顧客の理解は得やすい。機械設備の老朽化も悩みの一つ。半導体関連が忙しい間はなんとかやり繰り出来そう。[その他の製造業 滋賀]
- ・ あらゆるものの値上がりが影響して全体的な受注が減少している上、原材料・電気・外注費・人件費がさらに高騰して採算が取れなくなってきている。物が買えないから、売れない、という悪循環になっていると思います。[金属製品 大阪]
- ・ 中小企業さまからコロナ以降の業務改善の相談が数多く寄せられています。熟練技術者の確保が難しく対応しきれない状況です。このままでは顧客企業さまの発展、地域経済の発展に、遅れが生じてしまいます。[情報通信・広告業 京都]
- ・ 受注そのものは前年同期を上回っているが、生産能力向上への対応に伴い設備投資、人材確保を行ったため、現有生産能力に対する受注が足りない状況となっており受注を増やす必要があると感じている。[電気・情報通信機械・電子部品 島根]
- ・ 世界的な半導体不足や原材料価格の高騰などが影響し、サプライチェーンが停滞している。自動車工場の稼働率低下により、結果として部品工作機械の需要も停滞していると感じる。[輸送用機械器具 広島]
- ・ 光熱費、仕入価格の高騰により利益を圧迫している。本意ではないが、販売価格を改定する予定です。これにより、客数は減るものの売上高は維持する見込です。[飲食業 岡山]
- ・ 引合いは増加傾向にあり受注量は安定しているものの、資材や燃料コストの上昇を価格転嫁できておらず、利益率を悪化させている。[印刷 徳島]
- ・ 原材料や資材の価格が上昇しているのに対して、販売単価への転嫁が十分ではないため、利益率が下がっている。[機械器具 高知]
- ・ 原材料価格は落ちついて来たが、電力料金労務費のアップの為に価格交渉が厳しい。人手不足は慢性的になっており、頭数は揃えても経験不足から、生産性が落ちている。相当なベースアップをしなければ人は来ない。[鉄鋼・非鉄金属 福岡]
- ・ 燃料費の高騰が続いているが、運賃への転嫁ができていない状況に加えて、タイヤ等の度重なる値上げが業況を悪化させている。またドライバーの高齢化により、心身機能低下に留意した安全管理が今後は益々必要と考える。[対事業所サービス業 佐賀]

第171回中小企業景況調査より抜粋

https://j-net21.smrj.go.jp/report/smrjsurvey/tsdlje0000001alv-att/171th_houkokusho.pdf

(4) 双海中山商工会地区事業者の声

- ・原材料と燃料代が高騰しているため、値上げを考えている。(製造業)
- ・インボイス制度への対応について取引先から問合せがあった。(建設業)
- ・最低賃金が大幅に上がるため、正社員の基本給も連動して上げざるを得ず、負担が大きい。
(小売業)

(5) 2022 年下半期景気動向 まとめ

2022 年上半期では、緩やかではあるが持ち直しの傾向が顕著でしたが、下半期に入り業況が悪化している傾向が出ています。2023 年に入り回復しつつありますが、動きは弱く依然厳しい状況です。

円安と原材料・原油価格の上昇の流れは今後もしばらく続きそうですが、中小・零細事業所はコスト高を価格に転嫁できず、採算が悪化しています。